

一般研究用

# ProteoGREEN™-gGlu

表1. 製品情報

品番	品名	容量	保存	安定性	MW
GC801	ProteoGREEN™-gGlu	20 µg × 10本	遮光冷凍保存 DMSO溶解後は使い切り	未開封で約1年	673.51

## 1. はじめに

### ■ProteoGREEN™-gGlu について

ProteoGREEN™-gGluは、がん細胞の膜表面に過剰発現している(がん細胞での酵素活性が亢進している)γ-glutamyltranspeptidase (GGT) と特異的に反応することで蛍光が大幅に増大する蛍光イメージング用プローブです。GGTは正常細胞にはほとんど発現していないことから(正常細胞では活性が低いことから)、GGT活性の高いがん細胞を選択的に染色可能です。

## 2. 生細胞染色方法

### ■ご用意頂くもの

- ・脱水DMSO
- ・HBSS
- ・細胞培養メディアウム

### ■試薬の調製および細胞染色

- ① 20 µg のProteoGREEN™-gGluが入ったチューブに 29.7 µl のDMSOを加えて色素を溶解させ、これを 1 mM stock solution とする。
- ② 1-2 µM となるように 培地に溶解し、染色液とする。
- ③ 細胞を培養している容器から液体培地を除去し、培地で 2 回洗浄を行う。  
注: 培養容器は自家蛍光のない「ガラスボトムディッシュ」等を推奨する。
- ④ 培養容器に染色液を入れ、37°C、5% CO<sub>2</sub> 雰囲気下で 1 時間インキュベーションする。細胞の種類や培養日数などで異なるが、通常 30分程度で良く染色される。
- ⑤ 染色後、buffer で 2 回洗浄を行った後 buffer に置換し、常法にて蛍光観察を行う。

### ■蛍光観察

励起波長は 488 nm が適当。用いるフィルタは、GFP-LP(Nikon 社)もしくはU-MWB2(Olympus 社)等のロングパスフィルタが最適。アルゴンレーザーを用いる場合は、488 nm の波長の選択が望ましい。蛍光波長はおおよそ 525 nm をピークに検出される。

### ■保存

色素は窒素封入、乾燥状態で冷凍出荷しております。入荷後は乾燥した冷暗所(-20 °C以下)で保存してください。DMSO に溶解後は、1 回使い切りを推奨します。